

## 治験の対象 広がる



がん光免疫療法を開発  
小林久隆さん

光免疫療法の研究の進展とともに2009年、小林久隆さんに東京大の教授ポストの声がかかった。政府から90億円の研究費が支給される革新的研究プロジェクトの採択が有力視された。しかし民主党への政権交代で事業仕分けの対象になり、白紙に戻った。

「実用化が遅れるなら意味はない」と、教授就任を辞退した。内示を蹴ったことを実家に伝えると、母親は泣いた。

米国立衛生研究所（N

米国立衛生研究所（NIH）クリニックセンターの前に立つ小林久隆さん（左）と楽天の三木谷浩史社長  
|| 2013年6月（小林さん提供）



IH)でも実用化に向けた資金集めは難航した。そんな中、父親の膵臓がんを治すために情報を集めていた楽天の三木谷浩史社長(58)から話を聴きたいと連絡があった。

適した抗体が準備しやすく、光を照射ししやすい頭頸部がんから治験を始めた。米国での治験で、がんが消滅または縮小する奏功率が43%という数値に専門家らは衝撃を受けた。国内では20年に保険の承認が下りた。

現在は楽天メディカルが薬剤を供給し、胃がんや食道がん、肝臓がんなどにも治験の対象が広がった。三木谷氏には感謝するが、楽天からは研究費などのお金を受け取っていないという。「金をもらうと言いたいことを率直に言えなくなるでしよう」。何よりも自由と独立を尊ぶ研究者の意地だ。

治験をやりませんか」